

本翻訳はROTOBO監修による仮訳である。  
カザフスタン共和国大統領ウェブサイト  
(<https://www.akorda.kz/ru/renessans-centralnoy-azii-na-puti-k-ustoychivomu-razvitiyu-i-prosvetaniyu-1272135>)  
掲載の露文資料に基づく。

## カザフスタン共和国大統領論文 「中央アジアのルネッサンス：持続可能な発展と繁栄へ向かって」

2024年8月8日

### I. 発展目標の共通性

中央アジア地域は何世紀もの間、莫大な天然資源と力強い人的資本、そして豊かな文化的・歴史的遺産を持つ統一された地政学的・精神的空間として機能してきた。

遊牧と定住という生活様式の共益関係はこの地域の経済システムの基盤となっただけでなく、あらゆる変化に対する高度な寛容性と安定性の点で際立つ独自の政治的・法的文化や独自の価値体系の形成をもたらすものともなった。中央アジアでは帝国の建国と崩壊が繰り返される中で政治的・経済的モデルが進化を遂げたが、独自のアイデンティティは変わることなく保持されてきた。この地域の諸民族は太古の昔より、様々な文明との間で調和を保ちながら協力してきたのである。

大シルクロードおよび広大なユーラシア全体の歴史において中央アジアは重要な役割を果たしてきたが、その際も、独自の民族文化的・精神的独自性を保持できたのはまさにこのおかげである。

近年の発展の歴史において、この地域の国々は多くの試練と困難を乗り越えてきた。中央アジア諸国がいわゆる「失敗国家 (failed states)」の仲間入りをするという悲観的予測が実証されることはなかった。

この地域の国々は自らの豊かさを証明し、国際集団のなかで相応の地位を獲得した。

我々が領土保全と自由、独立を確たるものにできたのは、中央アジア諸民族の団結と知恵のおかげである。

今日では、この地域の国々それぞれが、国家建設、市場経済の発展、文化遺産の再建、ナショナル・アイデンティティの形成において独自の実績を有していると言っても過言ではないだろう。

公的機関と政府機関は近代化された。高度なインフラと産業が築かれ、数1,000kmに及ぶ鉄道や自動車道が新たに敷設されたほか、重要な社会福祉施設の建設が行われた。開放性と刷新を目指す我々の方針は、国民経済の段階的成長と国際的経済関係への統合をもたらすものとなった。

教育、保健、年金といったシステムを計画的に整備した結果、国民の社会的・経済的状況は大幅に改善されている。

地域内における政府間関係も大きく改革されることとなった。あらゆるレベルにおける建設的な二国間、多国間協議が国家間に確立され、互惠的協力関係が発展しつつある。

かつてしばしば矛盾を引き起こし、地域間協力の包括的な発展の障害となってきた諸問題の調整に

進歩が見られたことは、必要な意義を有するものである。

また、水・エネルギー分野における互恵的ソリューションの追求に成功したことは、高い評価に値する。国境の画定、国境検問所の業務の完全化、交通網の拡大、新規ルートの開設、国民の往來の円滑化といった問題を段階的に前へ進めていくための公的な環境も整備されつつある。

この地域の長期的な安全保障と繁榮の確保を目的とした努力の結集へと向けた歩み寄りのプロセスは、一貫性および不可逆性を帯びたものとなっている。

5カ国間の関係は現在、高度な戦略的パートナーシップおよび同盟のレベルに達しており、政治面、ならびに貿易・経済面および文化・人道面のいずれにおいても具体的な内容が盛り込まれたものとなっている。

中央アジア諸国は独自のプラグマティックな対外政策戦略の策定に成功した。この戦略によって、国家間および地域間の利害における安定したバランスが生み出されたほか、我々はグローバルなプロセスに関わる一人前の参加国になることが可能となった。

「中央アジア諸国」は平和を愛する国家としての地位を確立すると同時に、自らの理念とプロジェクトを多国籍機関において積極的に展開しており、独立国家共同体、上海協力機構、アジア相互協力信頼醸成措置会議、経済協力機構、ユーラシア経済連合、テュルク諸国機構等の、サクセスフルかつ影響力を有する組織の創設国となっている。

こうした点から、「中央アジア5カ国」はユーラシア大陸の心臓部において持続的発展を遂げる自給自足国家の一群である、と確信をもって述べることができる。

共通の歴史的経緯、そして何世紀にもわたる友好と善隣の伝統が、今後もこの地域の友好国の歩み寄りをもたらす確たる基盤として機能するであろうことに疑念の余地はない。

## II. 新たな発展段階におけるこの地域の役割

中央アジア諸国とその民族は、数世紀にわたって大陸における相互の文化的発展と文明間の対話の確立に寄与してきた。これは、その地理的位置の所以である。また、平和と相互理解の維持にも大きく貢献してきた。中央アジアは現在も、この高邁で重大な使命を順調に果たし続けている。

中央アジア諸国はグローバルかつ持続可能な発展、普遍的な安全保障および安定性の確保といった問題に関して似通った見解を堅持しており、国連総会の重要決議案の共同作成国としての役割を担うなど、地域的・国際的構造の枠組みの中で互いに支え合っている。

「中央アジア+」の枠組みによる新たな対話の場が立ち上げられたことも、国際関係主体としての中央アジアの政治的影響力が増していることを物語るものである。

この枠組みではこれまでに、9つのサミット、首脳会議が開催された。過去2年間で、「中央アジア+ロシア」（アスタナ）、「中央アジア+中国」（西安）、「中央アジア+米国」（ニューヨーク）、「中央アジア+ドイツ」（ベルリン）が初めて開催されたほか、中央アジア・EU首脳会議が2回（アスタナ、チョルポン＝アタ）、「中央アジア+ペルシヤ湾アラブ諸国湾岸協力会議」（ジェッダ）、「中央アジア+インド」（オンライン）が初めて開催された。アスタナでは今年、「中央アジア+日本」が初めて開催される。

他の国々や国際機関もこの枠組みによる協力に関心を示している。つまり、国際舞台における当地

域の主体性の確立へ向けた重要な一歩が踏み出されたのだ。

中央アジアの発展のベクトルは伝統的価値観への忠誠であると同時に、近代化および先進的知識を希求するものでもある。そしてこの点が当地域を、刷新されつつある国際システムにおける自給自足的かつ影響力を有する参加者としているのだ。我々は今日、国際的な地政学的・地経学的変容の中にあるユーラシアの中心地としての自らの役割の強化しようと努めている。

増大する経済的影響力や、イノベーションへの開放性および知的可能性といったものは、現代的な世界秩序を牽引する地域の1つへと中央アジアを変容させる前提条件を創り出すものである。この地域の各国はそのためのあらゆる資源と能力を有しているのであるから、なおのことである。

対話の場において共通の見地を包括的に推進することを目的として、地域プロジェクトに外部パートナーと共同参画するという枠組みに努力を結集していることは、特段の注目に値する。

私は、中央アジアがアジアとヨーロッパをつなぐ要素としてだけでなく、国際関係の中の地域的アクターという、世界的な相互作用の新たな中心となる能力を有する存在として位置付けられる時が来たのだと確信している。

### Ⅲ. 新たな協力形式

これからの10年間で中央アジアにとって決定的なものとなることは明らかであり、この歴史的な機会をどの程度効率的に生かすことができるかは、我々自身にかかっている。

世界的な地政学的混乱のなか、我々はこの地域に信頼と、共通不可分の安全保障という空間を作り上げた。そして、地域間協力の妨げとなる障壁を撤廃し、我々の多面的協力を質的により高度なレベルへと引き上げるための礎を築いた。

カザフスタンはキルギス、タジキスタン、ウズベキスタンとの同盟関係を確立したほか、トルクメニスタンとの間で戦略的パートナーシップを計画的に拡大している。

事実上あらゆるレベルにおいてコンタクトが密になっていることも、この地域の民族が歩み寄りを望んでいることを示すものである。各国首脳による相互の訪問、会談は定期的なものとなり、議会間、政府間、官庁間の関係の発展の活性化につながっている。

5カ国の関係発展においては、積極的な政治的対話と親善が極めて重要な統合要素となっている。

中央アジア諸国はこの地域独自の協力形式を生み出した。これは、独立、主権、領土保全に対する相互の尊重、ならびに今後生じうる見解の相違の平和的解決といった基本的原則にその基礎を置くものである。

中央アジア首脳会議は、アスタナ、タシケント、トルクメンバシ、チョルポン=アタ、ドゥシャンベで5回開催されてきた。これらの会議の成果は、誇張でも何でもなく、地域間協力の発展と拡大をもたらすものであったと同時に、こうした協力を前例のないレベルへと高めるものであった。この際、前進的で体系的な性質、そして最も重要なものとして、継続的な性質が統合プロセスに付与された。

2018年にアスタナで開催された第1回会合では、中央アジア5カ国の主な協力方針が決定された。同会合の成果に基づき、地域安全保障分野におけるコンタクトが活性化された。

2019年にタシケントで開催された第2回会合で、中央アジア諸国の首脳は地域協力の推進を目的とした一連の野心的なイニシアティブを取った。なかでも、カザフスタンは「21世紀における中央アジアの発展のための友好、善隣および協力に関する条約」の締結、ならびに中央アジア各国の安全保障会議書記による定期会合の実施が必要であるとのイニシアティブを提示した。首脳会議実施規則の採択が重要な成果となったことに疑問の余地はない。

2021年にトルクメンバシで開催された第3回会合は、極めて内容の濃いものとなった。各国の首脳が議会間フォーラムおよびユースフォーラムの開催とビジネス評議会の創設を呼びかけたのだ。協議会のシンボルが承認されたことも大きな意義があった。

2022年にチョルポン=アタで開催された第4回会合の主たる政治的成果としては、「21世紀における中央アジアの発展のための友好、善隣および協力に関する条約」への5カ国の調印手続が開始されたこと、また、中央アジアのための「グリーンアジェンダ」プログラム、および多国間形式の枠組みにおける協力コンセプトが承認されたことが挙げられる。

2023年にドゥシャンベで開催された第5回目の記念会合では、中央アジア諸国首脳協議会の形式を制度化するための第一歩が踏み出された。各国首脳らが、（中央アジア諸国首脳協議会に関する）加盟国コーディネーター評議会の創設を決定したのである。

アスタナで開催される第6回首脳協議会では、輸送関係機関の代表者らによる会合がさらなる発展を遂げる見込みであるほか、第1回エネルギー担当大臣会議、ならびにマスメディア・情報問題に携わる中央アジア諸国の大臣、関係者らによる会合が開催される予定である。

総じて、定期的で開催されるこのようなハイレベル会合はあらゆる分野における共同作業に大きな弾みを与えるものとなった。実務的な協力の強化を目指す施策を盛り込んだ地域協力発展ロードマップの採択が、何よりもこれに寄与している。

結果として、この地域の貿易・経済関係、ビジネス関係が大幅に活性化された。

歴史的観点から見れば短いと言える期間のうちに、中央アジアは、ダイナミックな発展を遂げつつある貿易、投資、輸送・通信ポテンシャルを有する互惠的協力空間へと姿を変えたのである。

過去5年間（2018～2023年）で相互貿易高はほぼ2倍に成長し、57億ドルから110億ドルとなった。昨年の地域内貿易高は約25%増となった。昨年、我が国における中央アジア諸国との貿易高は26.8%増の80億ドルに到達した。

大規模共同プロジェクトは、参加国に目に見える利益をもたらすだけでなく、中央アジア経済の構造全体を変えるものにもなっている。

重要な協力分野としては、国境地帯における貿易・物流ネットワークおよび産業拠点ネットワークの発展が挙げられる。こうしたネットワークは、相互貿易と共同投資事業を突き動かす新たな推進力となりうるものである。

地域内各国の輸送・物流ポテンシャルの実現も戦略的意義を帯びつつある。これは、中央アジアを急速に発展させるための新たな基点となることが求められる分野である。

産業、エネルギー、農業、輸送、デジタル化といった、局地的な「成長ポイント」として機能する分野における合弁企業の創設にも多大な関心が寄せられている。今年、中央アジア諸国の産業協力発展行動計画が承認されることは、この分野での大きな一歩となるだろう。

#### IV. 地域協力の展望に見る共有ビジョン

ドゥシャンベで開催された先の首脳会議では、この地域の「共通の家」の変容に向けて5カ国すべての努力を結集させることが、経済的に発展し繁栄した地域へと中央アジアを変えていくための力強い推進力となるという点が改めて確認された。

この点において、アスタナで開催される首脳会議には、向こう5年間（2024～2028年）で中央アジア地域諸国の発展の新たな時代を築くというミッションが与えられている。

脱グローバル化が進む今、中央アジア諸国による地域協力は、独特の文明圏としての自己保存と、統一された有機体としての地域の安定化の両方の目的において、重要な意味を持つものとなっている。この際、中央アジア諸国および諸民族の歴史的・文化的共通性によってもたらされる5カ国の相補性が、統合要素として機能すべきである。

偉大なるアル＝ファラビが「幸福を達成するために諸民族が助け合うならば、地球全体が高潔になる」と語った通りなのだ。

この新たな発展段階において、我々は一連の重要な目標と課題に直面している。そしてこれらを解決できるかどうか、この地域とここに住む諸民族の運命を左右することになるだろう。

**第1に：中央アジアだけでなく近接地域におけるものも含めた、長期的な発展と進歩のための重要な条件としての平和と安定の維持。**

カザフスタンの外交政策における優先方針の1つに、均衡の追求がある。我々は「何よりも平和を」の原則を変わずに堅持している。

国際社会における責任ある参加者として、カザフスタンは国際法、主権の尊重、国境の不可侵といった原則を無条件に順守することを支持する。

我が国と立場をともにする国々が数多くある、と断言したい。多くの国々の立場は相補的であり、公正で予測可能な世界秩序の形成を目指すものである。激動の時代にあっても、この点が、建設的な未来像を築くための確たる基礎となる。

中央アジア周辺で複雑な軍事的・政治的状況が続くなか、防衛政策・安全保障分野での協力の必要性が生じている。特に重要性を帯びてきているのが地域安全保障アーキテクチャの構築であり、これには、中央アジアにとっての安全保障リスクとその防止策の一覧の作成によるものが含まれる。

中央アジアにおける不可分の安全保障空間の形成、伝統的な脅威および新たな脅威との闘いにおける根本的な問題に対する包括的アプローチの追求、対抗措置および防止措置の策定、ならびに国連およびその他の国際機関、地域機関との間における当該分野での積極的な協力が、中央アジア諸国にとっての重要な優先課題となっている。

**第2に：経済ポテンシャルのさらなる開発、協力関係の発展。**

言うまでもないことだが、中央アジア諸国にとっての恒久的な課題に、多国間協力のための堅固な経済基盤の形成がある。

中央アジアは現在、この地域を構成する各国の共同努力と力強い経済ポテンシャルのおかげで、貿易、投資、学術、イノベーション分野において莫大な可能性を秘めた空間となりつつある。

中央アジア諸国は総面積が388万2,000km<sup>2</sup>、人口は8,000万人超であり、総GDPは4,500億ドルにのぼっている。この地域には世界のウラン埋蔵量の約20%、原油の約17.2%、天然ガスの約7%が集中している。また、中央アジアは石炭生産と発電でそれぞれ世界第10位、第19位となっている。

各国の経済が相補的であることから、外的ショックに対する耐性の確保や、貿易・生産サイクルの多角化が可能になっている。共同経済プロジェクトを効率的な実現は、このプロセスの促進につながる可能性がある。

中央アジア諸国の経済を技術的に開発していくことが、重大な課題となっている。資源依存から段階的に脱却する必要があるのだ。この点においては、デジタル化、ならびにメディア、映画、音楽、デザイン、教育、情報技術分野を包括するクリエイティブ産業が、経済の成長ポイントになりうるだろう。中央アジア諸国はこの分野での共同プロジェクトを立ち上げるに足る十分なポテンシャルを有している。

デジタル化およびクリエイティブ産業の旋風は、原料経済から知的生産活動への連続的な移行を促すものになるはずだ。

中央アジアにおける経済協力は、主要とは言えないかもしれないが、少なくともこの5カ国の国民経済の成長の主たる源泉の1つになる可能性が十分あると私は確信している。

**第3に：中央アジアは地球上の極めて重要な輸送・物流拠点およびトランジット拠点の1つになる可能性を秘めている。**

中央アジアは、世界的な輸送交通体制における重要な構成要素へと急速に変容しつつある。第1には、中国が推し進める有望プロジェクト「一帯一路」であり、国際輸送回廊「南北」である。これらは、この地域の5カ国すべてが多かれ少なかれ関与するものだ。

今日、中央アジア諸国は、この他にも新たな輸送回廊の構築へと向けた有望な構想を推し進めている。

カザフスタンはパートナーとの協力のもとに、カスピ海横断国際輸送ルート（中央回廊）を積極的に推し進めている。このルートでは、輸送規模が中期的展望で5倍に伸びる可能性がある。

カザフスタンの海洋インフラ、すなわちアクタウ港とクルィク港の開発に伴い、新たな展望も拓かれることとなった。両港を経由して中国や中央アジア諸国から南カフカス、トルコ、さらには欧州へと送られる貨物が増加しているためだ。

現在検討されているアフガニスタン経由での輸送回廊では、南アジア諸国の有望な市場、それにインド洋諸港へのアクセスが確保される見通しだ。これは、地域全体の利益に合致する。

中央アジア域内の輸送面における域外諸国との協力を統合しこれを拡張すれば、我々はここに掲げた目標の多くを達成できるだろう。

今後、トランジット・輸送面における中央アジア諸国の重要な協力分野になるべきものとしては、輸送交通体制の包括的な改善（フライト頻度の向上、新たな空路・鉄路の開設、国境の往来の近代化等）、イノベーション技術の導入を伴う輸送インフラの迅速な発展、中央アジア地域のトランジット能力の拡充、および同地域が持つトランジット輸送ポテンシャルの効率的な活用が挙げられる。

**第4に：水、エネルギー、食料に係る安全保障を狙いとした共通アプローチの策定。**

近年、中央アジア諸国のほぼすべてが被った水不足は、農業従事者の社会的・経済的地位に悪影響を及ぼしているほか、国民に深刻な経済的損失をもたらしている。

ここで、水・エネルギー、環境、社会・経済に係る極めて重要な問題を検討し解決するためのユニークな地域機関であるアラル海救済国際基金が担っている独自の役割を強調しておきたい。

同基金の現議長国として、カザフスタンは同基金の枠組みにおける協力の活性化、ならびに国際水・エネルギーコンソーシアムの創設への共同での着手を提案した。水問題がこの地域の食料安全保障と切っても切れない関係にある以上、同コンソーシアムには食料という観点を盛り込むことが重要であろう。我が国は従来通り、こうした問題の解決に向けた建設的で開かれた対話を支持している。

キルギスにおけるカンバラチンスク第1水力発電所、タジキスタンにおけるログン水力発電所の建設は、中央アジア全域にとって世紀のエネルギープロジェクトになりうるものだ。両発電所の建設は、5カ国すべてに乗数効果をもたらすものになる。

現在も継続している地政学的危機は、世界規模における食料確保に影響を及ぼすものである。外的要因に対する中央アジア諸国の依存度を最小限に抑えるため、この分野で協調対策を講じる必要性が生じている。

これを狙いとして、我が国は2030年までの中央アジア食料安全保障戦略計画の立案を提案した。これは、5カ国間でデータの分析・交換を行うための統一情報プラットフォームの構築を伴うものとなっている。

世界的な気候変動による悪影響を低減するための重要な手段に、「グリーン」経済への移行がある。

中央アジアは、各国が保有している再生可能エネルギーという莫大な天然資源ポテンシャルを活用したいと考えている、例えば、我が国では再生可能エネルギーの割合を2030年までに15%へ引き上げ、2060年にはカーボンニュートラルを達成したいと考えている。

再生可能エネルギーを幅広く活用すれば、温室効果ガス排出量の削減によって環境に恩恵がもたらされるだけでなく、エネルギー安全保障の向上と、新たな雇用の創出が促されていくだろう。知識、資源、ベストプラクティスのさらなる共有を促すことによって、この分野での協力が強化されていくと見込まれる。

**第5に：中央アジアの極めて重要かつ最も価値ある資源、それは若くて知性あふれる世代である。**中央アジアは、世界で最も「若い」地域の1つである。この地域の国民の平均年齢は、わずか28.7歳だ。

国連の試算によると、この地域の人口の平均年齢は2024年までは下がり続け、28.3歳になるという。これは他の地域、すなわち北米（41.5歳）、欧州（46.8歳）、中国（48歳）の数値を大きく下回る値である。

これは、5カ国すべての経済的・社会的発展に対して幅広い展望を拓く類まれかつ具体的な競争優位性である。若い世代は、経済、技術、文化といった分野での刷新プロセスを推し進める原動力となりうる世代だ。世界的な競争という条件の中では、この世代が成功への鍵を握ることになる。

この点では、学術・教育分野での協力の発展、若い世代の繋がりの強化、若い世代が持つ可能性の拡大および当該世代のポテンシャルの実現を狙いとした共同プラットフォームの構築が喫緊の課題となっている。

そこで、我が国は大学間協力の発展、大学横断型分校および共同学部の開設を積極的に支援している。

カザフスタンは、我が国で高等教育を受けることを望む近隣諸国の若者の意向を高く評価しており、国内の大学の定員を大幅に増枠している。現在、我が国の大学では中央アジア諸国の学生約9,000人が勉学に励んでいる。

近年、外国の数多くの一流大学が我が国に代表部を開設した。研究を行う大学も増えつつある。テクノパーク、エンジニアリングセンターの開設も続いている。

こうした事業は、カザフスタンを地域教育拠点に変容させようと狙う我が国の戦略目標の枠組みの中で進められている。

現在、我々は中央アジアの統一的な高等教育空間の構築に向けて、ともに着々と歩を進めている。

**第6に：友好国の文化・人道的関係の調和を基盤として各国の文明的アイデンティティを形成することが重要なミッションになりつつある。**

中央アジアの現代的な輪郭を築き上げると同時に、我々はこの地域の国民の国家的、地域的アイデンティティに対する新たな視点の創出にも取り組んでいる。

我々を結び付けているのは、独特の文化と伝統が形成される基盤となった中央アジア独自の精神性である。共通の歴史的ルーツに対する尊敬、そして異文化間の対話、宗教間の調和が、中央アジアのアイデンティティの柱として機能している。

我々諸民族のナショナル・アイデンティティの基盤をなしているのは、歴史的記憶だ。先人らの偉業や豊かな文化に対するしかるべき誇りは、現時点における諸国の順調な発展、ならびに未来におけるその着実な繁栄を推し進める強力な原動力となる。それゆえに、我々は、我々諸民族に共通する過去の鮮やかなページに多大な注意を払うべきなのである。

テュルク、ペルシャ、アラブ、中国、ロシア、西欧の資料を基盤として中央アジアの共通史をまとめ上げることの必要性は極めて高いと言えるだろう。

我々の国際競争力を高めるには、この地域の結束を保ちつつ、共通の目標を絶えず追求していく必要がある。偉大なるアバイが「成功の源は結束にある」と言った通りである。

地政学的プロジェクトやイデオロギーが世界中で展開されるなか、中央アジアは、もてなしの精神や結束、相互扶助、家族価値観の保持といった優れた伝統や、その他の多くの事柄を内包する自らの精神的・文化的規範を守り抜いていく必要がある。

\*\*\*

最後に、地域協力とは客観的現実であるだけでなく、必要不可欠なものでもあるということを強調しておきたい。

地政学的不確実性と既存の世界秩序の崩壊に直面する中であっては、実際、これが唯一のプラグマティックなアプローチとなる。我々の未来は結束や相互の信頼、世界への開放性を強められるかどうかにかかっている。こうした原則を基盤とした場合にのみ、ダイナミックで、革新的で、文化的に豊かな地域である中央アジアのルネッサンスを確実なものにしていけるのだ。



地域の結束というパラダイムの強化は、既存の、そして将来の課題への最適解として機能するものであり、ネガティブな傾向の抑制に向けた統合的なアプローチの策定をもたらすほか、何らかの外的影響に対する有効な対策の基礎となっていくだろう。

これらを狙いとして、我が国の提案に基づき、地域協力発展コンセプト「中央アジア－2040」が策定された。このコンセプトには、5カ国による多面的な協力のさらなる発展の指針が盛り込まれている。

カザフスタンとしては、「中央アジアの成功はカザフスタンの成功」という原則を一貫して堅持し、この地域における我が国の戦略的パートナーおよび同盟国の意向があるかぎりにおいて、統合プロセスのさらなる発展の歩みを進めていく所存である。

カシム=ジョマルト・トカエフ

カザフスタン共和国大統領